

未曾有の大惨事に直面して思うこと

ファイナンシャル・プランナー 横山 佳代子

3月11日、日本で観測史上最大のマグニチュード9.0を記録した東日本大震災が起きました。今回の地震でお亡くなりになったかたがたのご冥福をお祈りいたしますとともに、被災地の復興に向けて、できる限りの協力をさせていただきたいと思っています。

東北地方を中心に多くの犠牲者を出した今回の震災は、広範囲にわたり社会的混乱を招いています。連日報道される被災地の様子は目を覆いたくなるほど悲惨なのですが、懸命に救助にあたられる方の姿、日本各地はもとより諸外国からの温かい支援があることを思うと、自分もただ傍観しているわけにはいかないという気持ちになります。

今回は、「被災者ではない個人」ができることは何かについて、考えたいと思います。

●不可解な買占め行動

私の住んでいる東京では、地震のあった当日は交通機関が麻痺し、電話も一切通じなくなるなど混乱はあったものの、自宅に戻り雨風をしのげる状態で夜を明かすことができたので、大変恵まれていたと思います。ところが、翌日から別の問題が生じました。

飲料水、災害用の保存食、カップめん、米やパン、トイレトペーパーやティッシュ。これらのものが軒並み品切れとなり、やっと営業を始めた店舗は開店前から行列を作り入場規制までする騒ぎとなっています。流通関係がかなりダメージを受けたようで、加工工場やメーカーが被害を受けて品物が入って来ず、商品入荷の見通しが一時的に立たなくなったようです。

ガソリン不足はもっと深刻で、どのガソリンスタンドも長蛇の列。車がなかなか利用できなくなったことはもちろん、宅急便やネットスーパーなどの営業にも影響が出ています。

また、東京電力では原子力発電所が地震の被害で稼動しなくなった影響で、電力の供給力が大幅にダウン、都心部で計画的に停電をすることを決めました。

「食料も、ライフラインも絶たれる。東京も被災地のように大混乱になる。」と考えた人たちが、食料品や飲料水、ガソリンなどをストックしておこうとしたため、このような事態になったと思われます。

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2011 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

● マスメディアによる刷り込みと、早とちり

心理学の言葉に、「利用可能性ヒューリスティクス」というものがあります。これは、人が何かを判断するときに、すぐ思い出せる事象、簡単に連想できるものを判断材料にして結論を導き出すことをいいます。短時間で手っ取り早く判断するためには便利な方法ですが、単なる「早とちり」になってしまう場合も。今回、買占め行動に走っている「被災者ではない人々」のパニック的な行動は、この利用可能性ヒューリスティクスによる過剰反応と考えられます。

震災が起こってから、私たちは連日テレビや新聞で被災地の様子をニュースで見聞きしています。「停電」と聞くと、避難所で真っ暗な中で生活している方々のニュースを思い出す。「物流が滞る」と聞くと、被災地のスーパーの空っぽの陳列棚、物資が届かなくて困っている方々、ガソリンスタンドの大行列を連想する。

ここ数日のメディアの影響ですぐに連想できる状況（＝被災地と同じ状況）を思い浮かべ、必要以上に不安を感じ、衝動的な行動に出たのでしょう。

しかし、落ち着いて考えて下さい。

東京は、流通のための道路が分断されてはいません。ある商品の仕入先が被害を受けた地域であったなら、代替りの取引先を探し、代替品を仕入れることができます。商品の供給量が通常に戻るのには時間の問題です。また、現在品薄となっているカップめんや飲料水は、被災地への援助物資として優先的に回していますので、品薄でも何も不思議なことはありません。

停電はどうでしょうか。停電する時間は一日3時間、多くても6時間程度です。その間お水が出なくなっても、事前に汲んでおけばよいだけです。今回の停電は、突然予告もなく電気が止まる場合と違い、事前に備えておくことができ、復旧する時間もわかっているもので、何日も自宅に籠城しなくてはならない事態を想定するものではありません。

● 冷静に、復興の妨げにならないように

どんなに被害が大きくても、週が開ければマーケットが開き、株や為替の取引が始まります。世界がいつもどおり動いている中で、「日本」を臨時休業することはできません。

想像してみてください。右足を怪我したら、左足が右足の分までがんばります。いつもより体重がかかって、左足が痛くなるかもしれません。今私たちが計画停電や品不足で多少の不便を感じているのは、そのような痛みと同じではないでしょうか。日本が大怪我をし

てしまっているのですから、機能するほかの部分若干の不具合を感じるのは致しかたないことです。ただし、無理をしすぎてその他の部分までもが動けなくなり、これ以上怪我をひどくしてしまうようなことはあってはなりません。

必要以上の混乱を避けるために、どうか周りの雰囲気流されないで、確かな情報だけを耳に入れるようにしてください。今回の地震被害に関する不確かな情報がチェーンメールなどで出回り、詐欺の被害も報告されています。これからは、「情報を見極める力」がよりいっそう大切になります。

今回、幸いにも被災を免れ、いつもと同じように生活できる個人が、被災地のためにできること。それは、不安を煽るデマやうその情報にまどわされることなく冷静に行動し、粛々と自分のなすべき仕事をこなし、日本経済を停滞させないようにすることです。

今はまだ経験の少ない個人がボランティアとして現地に入ってもご迷惑になるだけと聞いていますので、もうしばらく、被災地への援助は義援金という形で間接的に行うのが良いでしょう。日本の傷の治療（復興）がスムーズに行われるよう遠方から支援することも、最前線での援助と同様に、大切なことであると考えます。